

【 設問アプローチ 】

[24 - B]

- 問1 : ① [設問チェック] 傍線部の、本文中における〈 意味内容 〉を答える問題であることを把握する。
- [アプローチ] 本文読解中に、文脈から傍線部の意味内容を読み取り、〈 根拠 〉となる内容にチェックを入れておく。
- その上で、本文を一通り読み終えた後で、本文中のチェックと選択肢文の内容とを照らし合わせる。
- この際、自分が持っている〈 語句の知識 〉も活用しながら語句の文脈での使われ方を判断し、選択肢を吟味する。
- ② [本文読解 - a] 傍線部の語句は「ほの暗い」と「空間」の2つの文節に分けることができるので、それぞれの意味内容を考察する。
- 「ほの暗い」は〈 語句の知識 〉から、「明かりがぼんやりとして暗い様子」を想起できる。そして、「空間」については本文の文脈から「電車の中の、北山年夫と堀川倉子との空間」であると読み取れる。
- ③ [本文読解 - b] 前後の文脈を確認すると、傍線部の内容は「衝動にかられて」で一つの表現になっていることが読み取れる。
- 〈 語句の知識 〉から、「衝動にかられる」は「せきたてられるような気持ちになること」を意味すると考えられる。
- ④ [本文読解 - c] 本文では、「心の息吹のようなものが - ふきつけてくる」という使われ方をしており、「息吹」が「ふきつける」ものであることが理解される。
- その上で、「息吹」を〈 語句の知識 〉から考えると「呼吸」や「息遣い」の意味を想起することができる。
- この語句の意味が、本文の文脈で当てはまるかを確認する。
- ⑤ [設問読解] ②・③・④でそれぞれ確認した傍線部の〈 内容説明 〉を設問の〈 根拠 〉として、本文の内容を適切に説明している選択肢を、解答として選ぶ。
- 問2 : ① [設問チェック] 傍線部に関して、「彼」の〈 心情 〉の〈 理由 〉が問われている。また、傍線部中に「彼女のその苦しみ」とあるので、どのような苦しみなのかを本文から明らかにする必要がある。
- ② [本文読解 I] 傍線部中の指示語「その苦しみ」の指示内容を本文から確認する。
- 傍線部直前の36行目に「戦争のもたらした苦しみ」とあるので、これが指示内容であることが分かる。

この指示内容に関しては、リード文に「倉子是最愛の夫を戦争で失った痛手から立ち直ることができず」とあるので、その苦しみであることが理解される。

- ③ [本文読解Ⅱ] 本文の文脈から、傍線部についての〈内容説明〉は傍線部以降の部分にあることが見て取れる。

38行目～44行目の範囲では「生存の秘密を交換し合う」や「人生は新しい意味をもつだろう」といった内容があり、これが傍線部の「苦しみの中にはいつて行きたいと思う」の意味内容やその目的を示していると考えられる。

- ④ [設問読解] ②と③で確認した内容を踏まえて、本文の内容を適切に説明している選択肢を解答として選ぶ。

問3 : ① [設問チェック] 複数の波線部に関して、〈表現上の手法〉が問われていることを把握する。また、これらの波線部が「二つの段落」にあるとあるので、該当する段落を中心に〈内容説明〉を確認する。

- ② [本文読解] 本文中の波線部に関する記述を確認していく。

それらを要約すると、「年夫が倉子の顔に認めた斑点は、年夫を動揺させた。その斑点が年夫の心を乱したのは、その斑点がかつての戦争体験を年夫に思い起こさせたから」だと解釈できる。

63行目～71行目には、年夫が戦場での体験を思い出している様子が描かれている。これらの内容を踏まえて、本文の内容を理解する。

- ③ [設問読解] ②で確認した波線部に関する〈内容説明〉を踏まえて、本文の内容を適切に説明している選択肢を解答として選ぶ。

問4 : ① [設問チェック] 傍線部に関して、北山年夫の〈心理〉が問われていることを把握する。また、設問文に「北山年夫がこの言葉を言うてしまうまでの」とあるので、本文で確認すべき内容は傍線部までの部分にあることが〈予測〉される。

- ② [本文読解] ①で確認したように、傍線部②までの北山年夫の〈心情〉の動きを物語の展開と合わせて確認していく。

まず、リード文から年夫と倉子がともに戦争体験の苦しみを背負っていることが分かる。また、二人がお互いにひかれ合い、お互いの苦しみを理解しながらも、それ以上の深い人間関係を作り出せないでいる状況が示されている。

本文では、倉子の顔に斑点を認めたことを契機として、72行目にあるように年夫は「暗い思い」にじっと堪えている。

そして、73行目～75行目にあるように「自分の生存のためには仕方がなかったのだ」と思いを巡らしている。

その結果、83行目辺り「彼女の心の - できないことを感じた」という心境に至っている。

こうした心の動きを経て、年夫は倉子が「彼の心を誘う（89行目）」のを感じたが、90行目「できない、できない」と思い、傍線部②のような言動をとったという流れが見て取れる。

③〔設問読解〕②で確認した本文の内容や展開を踏まえて、選択肢を吟味する。

問5 : ①〔設問チェック〕傍線部の〈内容説明〉が問われていることを把握する。

また、傍線部中の内容を分析すると、「苦しげな」と「微笑」という2つの〈描写〉があるので、それらの〈内容説明〉を本文から明らかにする。

②〔本文読解〕傍線部の直前に「そして」とあることから、倉子が傍線部のようにふるまった直接的な〈きっかけ〉は、傍線部の前に示されていると考えられる。

傍線部の一文前に『「ええ。」彼女は反射的に顔を後ろに引いた』との記述があり、これが傍線部の〈きっかけ〉になる。

傍線部一文前の内容は、文脈から92行目で年夫が「さようなら」と言って顔をさげたことに対する反応であることが分かる。

ここから、傍線部③の〈内容説明〉を求めるためには、傍線部までの物語の展開を踏まえることが必要であると考えられる。

傍線部③までの物語の展開や内容は、おおむね問4の読解で確認したとおりだが、問4では〈年夫の心情〉を中心に読解を行ったのに対して、問5ではそれを踏まえて〈倉子の心情〉を読み解く必要がある。

物語の展開を順に追っていくことで、傍線部の〈内容説明〉を把握する。
89行目で倉子の「右肩が、彼の心を誘」ったが、年夫は「できない」と思い「さようなら」と言っている。それに対する反応が傍線部③の「苦しげな微笑」であることから、この時、倉子は「年夫の心情を理解しながらも、現在の関係以上に深い人間関係を作り出せないことに複雑な心境を抱いている」ことが考えられる。

③〔設問読解〕②で確認した本文の内容を踏まえて、選択肢を吟味する。

問6 : ①〔設問チェックⅠ〕「本文の特色」について答える問題であることから、特定の部分ではなく、本文全体から〈根拠〉を求める意識が必要になる。

→〔アプローチ〕本文全体から〈根拠〉を求める設問では、先に選択肢文の内容に目を通し、ポイントとなる内容にチェックを入れておく。

② 〔 設問チェック Ⅱ 〕 設問文で「ふさわしくないもの」が問われていることを把握する。

→ 〔 アプローチ 〕 正解の選択肢以外は、本文に書かれている内容になるので、
選択肢の内容を本文の内容把握のヒントにすることができる。

③ 〔 本文読解 〕 本文を読解する際に、内容の要点や文構造・物語の展開をチェックしておき、
本文の内容を通して把握しておく。

④ 〔 設問読解 〕 ①でチェックした選択肢文の要点と、②でチェックした本文の要点とを照らし
合わせて、適切な選択肢文を吟味する。

この際、単に文章の内容の正誤を確かめるだけではなく、文章の流れを正しく汲んだ内容説明
になっているかも確認する。